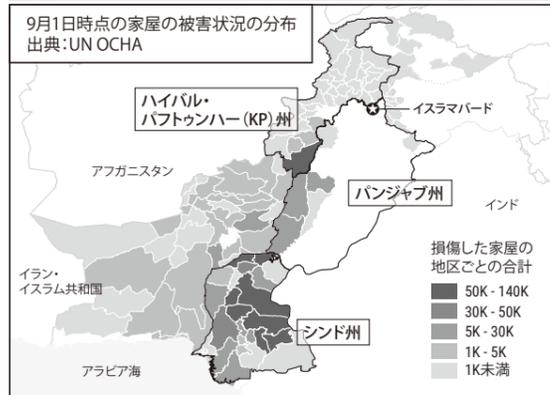




かつては村人の暮らしの場だった陸地がまるで湖に。移動はボートを使わなければなりません



パキスタン国家災害管理局*の情報によると、これまでに死者は1,739名、負傷者は12,867名におよび、228万戸以上の家屋が全壊または半壊、116万頭以上の家畜が死亡、439の橋と13,115 kmの道路に被害が出て、3,304万人以上が被災しているとのこと（11月18日現在）。

ジェンは8月に、パキスタン現地事務所のスタッフをハイバル・パフトゥンハー（KP）州、

パキスタン 洪水被災者のための 緊急支援

パキスタンでは、今年6月中旬から、過去30年の平均値の3倍近い雨量のモンスーンが続き、各地で洪水や鉄砲水、地すべりなどが起きました。8月半ばにはとうとう国土の3分の1が冠水する事態となり、パキスタン政府は8月25日に「国家緊急事態」を宣言しました。

パンジャブ州、シンド州の被災地域にそれぞれ派遣し、調査を行いました。家々が流され、生活基盤、基礎インフラが崩壊し、多くの住民は、最低限のものしか持たずに、主要道路などのかろうじて水没を免れた場所に避難している状況です。なかでも大きな被害を受けたシンド州では、約9割の住民が自分の家に戻れずいます。3カ月たっても水が引かない場所が多く、水が引いても今後1〜2シーズンは農業を再開することが難しいとのこと。

これを受けてジェンは、様々な形で寄付を募り、現在までに約700万円を託していただくことができました。

今号では、現地から届いた写真とともに、現地の被災状況や緊急支援の実施状況を詳しく報告いたします。

*National Disaster Management Authority, NDMA

2022年を振り返って

「一人ひとりの命は等しく尊い」これは、ジェンが大切にしている理念の一つだ。この中で最も重要なのは「等しく」というところ。この理念を幾度となく思い返し、自分たちはそういった世界を実現するために毎日を尽くしているかを、自問し続けた一年だった。いかなる出来事にも光と影があり、光の当たらない影の部分に追いやられた人びとは、等しく尊いとは思えない命を生きることを強いられている。

ただ、影の中に生きる人びとも、弱くてかわいそうな存在ではない。むしろ力強く立ち上がる姿に、いつもこちらの方が励まされ、勇気をもらってきた。そんな人びとの生きる力を、今年一年、私たちは十分に支えることができただろうか。わずかでも支えることができたとすれば、それは我々の活動を支えてくださる多くの方のお力のたまものだと、感謝で一杯だ。同時に、十分であったならば、人道支援従事者である我々は既に、全員失業できているはずだ。

目の前には、まだ長い道のりがあるけれど、我々を支えてくださる人びとと共に、来年も生きる力、を支えていきたい。

JEN理事・事務局長

木山 啓子

スタッフの
ひとこと

ジェンの事務所には観葉植物があります。一時期、葉を落としてしまい、最後の1枚になってしまったことがありますが、土と鉢を変え、栄養を与え、今ではたくさんの葉が青々と茂っています。いつもこの植物から「諦めるな!」とリマインドをもらっているような気がしています。(管理部M, I.)

生きる力、を支えていく

ガタオ・チャリティ・プロジェクトへご協力のお願い

～ネコのワインでチャリティ～

ポルトガル全土で愛される国民酒的な存在のガタオ村産の微発泡白ワイン。ガタオとはポルトガル語で大猫という意味だそうです。100年以上の歴史を誇る元祖ネコラベルの缶入りワインを、この度、木下インターナショナル株式会社様のご厚意で、お得に購入できる上、売り上げの一部がジェンに寄付されることになりました。是非、年末年始のパーティなどにお役立てください。2023年1月29日までの限定販売ですのでお早めに。



詳細・ご購入はこちらから



※本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断転載は固くお断りいたします。
※QRコードを読み取る際、無料アプリをお使いの方は、アプリによって広告が表示される場合がございます。間違えて広告をクリックされないようご注意ください。
※ゆうちょ窓口・ATMで現金支払いの場合、同封の赤枠の振込用紙を使っても振込手数料が110円かかります。
手数料についての詳細はゆうちょ銀行のホームページ (https://www.jp-bank.japanpost.jp/ryokin/rkn_sokin.html) にてご確認ください。

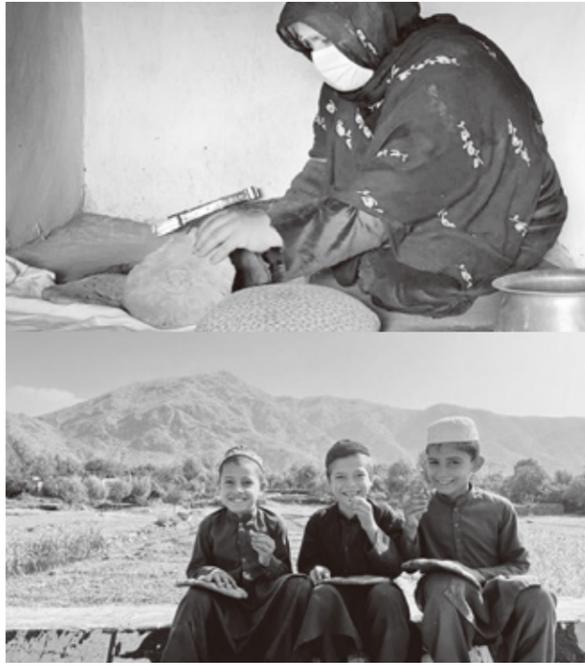
東京本部事務局の住所について

特定非営利活動法人ジェン(JEN) 東京本部事務局
〒107-0052 東京都港区赤坂7-5-27-305
TEL: 03-5114-6201 FAX: 03-5114-6202
ホームページ <https://www.jen-npo.org/> Japan.Emergency.Ngo
NPO JEN 検索 @NGO_JEN

今回ニュースレターをお送りする際に使用している封筒の記載住所は旧住所となります。修正に要する費用などを勘案した結果、封筒に表示する住所については、当面古いままで使用し続けることといたしました。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、ご理解賜われますようお願い申し上げます。

このニュースレターは継続可能な森林管理のもと生産された原料で製造された紙、FSC®認定紙を採用しています。





パンを製造中のデダイさん(上) ブレッド+を笑顔で頬張る子どもたち(下)

●ブレッド+(ブレッドプラス)支援
 ジェンは国連世界食料計画(WFP)と共同で、ブレッド+という栄養強化パンをナンガルハル県の小学校に通う子どもたちに配布する活動を実施しています。9月から支援地区を4地区に拡大、11月1日の時点で1日に68,000人の子どもたちに配布できるようになり、目標とする7万人にまもなく到達しそうです。5月からブレッド+を配布しているクズクナル地区では、この活動により登校する生徒数が

アフガニスタン

3715人も増えたという嬉しい報告が届いています。パンの製造を行うデダイさんは、「夫を亡くしてからは、兄弟や村の裕福な方からの支援でなんとか暮らしてきました。でも今はこのプロジェクトのおかげでパンを製造する仕事があります。収入があるおかげで、子どもたちを学校に行かせ、文房具も買うことができます。周囲に頼らずに暮らしていけるようになりまして」と話してくれました。

シンド州での被災状況



家の中まで水浸しの状態。土地が平らで水の逃げ場がないため、水が引くには蒸発するのを待つしかないとのこと。現地の地理学者によると、水が完全に蒸発するまでに3~4カ月はかかる見通しといわれています。水があるため蚊が大量発生しており、マラリアやデング熱など感染症の流行も心配されています。



パキスタン政府の小麦の貯蔵施設の様子。貯蔵されていた何千トンもの小麦が水没してしまいました。この被害がなくともインフレで食糧価格が高騰しており、さらなる痛手となっています。



25リットルのタンクを抱えて、水深1メートルの水の中を歩いて水汲みに行く被災者(写真左)。ロバやバイクなどを使って水汲みに行く子どもたちも多いです。給水場所(写真右)の水でも、安全な飲み水とは言えない状況とのことです。

パキスタン
 KP州450世帯に家畜飼料を配布

ジェンは支援第一弾として、KP州ノウシエラ郡の450世帯(小型・大型家畜3,600頭)に家畜飼料を配布しました。この地域の家畜農家にとって、家畜は人びとの命の次に大切な財産といえるものです。貧しい家畜農家の方にとって牛はとても高価ですが、牛が1頭い

ればミルクは重要な栄養源であると同時に、ミルクを売って収入を得ることもできます。「この牛だけは」と高台に避難させたものの、飼料は全て流失しており、食べるものがない避難先で、牛たちは急激に弱ってきていました。家畜による収入が確保できれば、生活再建の

よすがとなりますが、飼料がなければ牛も冬を越すことはできません。9月半ばには、このような被災された家畜農家の方々に、飼料を配布することができました。

第二弾では、シンド州の被災された方の中でも、特に厳しい状況にある290世帯(女性世帯主、障がい者、妊娠/授乳中の女性、お年寄り、慢性疾患をもつ人、多数の子どもをもつ世帯など)約2,030人の方々に約2カ月分の食糧配布を12月からスタートします。配布する食糧は、現地でヒアリングを行い、米、小麦粉、植物油、紅茶、砂糖などを予定しています。



合計99トンの飼料と麦わらを配布

アフガニスタンとパキスタンの現地スタッフが来日しました



ハミドゥラ・ハミッド

今回の訪問では、支援者の皆さま、大学生、元同僚、日本の友人、東京本部の同僚や理事などにお会いし、アフガニスタンで起きている人道危機について情報を交換し、調整、報告を行うことができました。津田塾大学での講義では、自国を代表してスピーチを行いました。ジェンのサポーターやご寄付をいただいている皆さまに、この困難な時期にアフガニスタンの人びとと共にくださることに感謝を直接伝えられたことは、素晴らしいことでした。本当に同僚や日本が恋しいです。また、お会いしましょう。



ジェン理事と記念撮影



アスマット・アリ

9年ぶり3回目の日本訪問は、素晴らしい経験でした。日本を訪れるたびに、日常生活における規律、礼儀正しさ、労働倫理、誠実さなど、多くのことを観察し、学ぶことができます。新型コロナの影響で、東京本部の同僚とは3年以上対面で会えませんでした。今回の訪問で、すべての課題、将来の計画、仕事の改善について詳細に話し合うことができ、これまで以上に強くプロフェッショナルな関係を築くことができました。困難な状況にあるパキスタンを思い、ご寄付いただいている支援者やジェンサポーターの皆さまにお会いし、お礼を申し上げることができてよかったです。



「活動報告会」の様子

ジェン・アフガニスタン及びパキスタン統括責任者のアズマット・アリと、アフガニスタン事務所長代行ハミドゥラ・ハミッドが数年ぶりに来日しました。日本では、日ごろから支援いただいている皆さまへの報告を行い、それぞれの国の支援活動の将来計画を話し合い、職員研修を受講しました。また、10月21日には「活動報告会」を開催し、パキスタンの大洪水や、タリバンによる政権掌握後1年のアフガニスタンの現状、そしてジェンの支援活動について、お話しさせていただきました。当日は、オンライン、オフラインあわせて多くの支援者の方にお集まりいただき、質疑応答にも活発にご参加いただきました。

パキスタン被災者支援のお願い

日本の人口の約1/3に当たる3,300万人の方々被災され、過酷な避難生活を強いられています。どうか引き続き、皆さまのご協力・ご支援をお願いいたします。

